

インドネシア・アチェおよび東北大津波で被災した文化遺産/ バイタル・レコードの救出活動について

樹皮紙研究者/元 JICA 専門家 坂本 勇 (2011.5.6.)

1. 被災地支援の初動は、迅速かつ一元的な被災情報収集と救済優先順位の決定
2. 「紙媒体」の初期救済活動
 - ①タイム・スケジュール
 - 「文化財防災ウィールの時間的記載」と「現実」のギャップをどう考えるか？
 - 「文化遺産／バイタルレコードは、どの程度大事か？」
 - デジタル媒体は、紙媒体よりも迅速な処置が必要。
 - ②初動時において災害専門家の助言、参画が生死をわける。
 - 救済の質・仕上がりは、初動処置に大きく左右される。
 - ゆえに、初動作業において経験豊かな災害専門家の助言、参画が重要となる。
 - ③大規模災害時の「トリアージ Triage 優先度選別」
 - 緊急性の優先度と、症例に応じた応急処置法の指示
3. 救助、応急処置の前に
 - ①外見はひどい汚損、形状であっても、復旧できる文化遺産／バイタルレコードは多いので、「救助をあきらめない」。
 - ②2-①の考えに左右されるが、私見では「被災後迅速な初期救助活動」を推奨。
 - ③作業員の安全、2次災害発生に備え身を守る術や対策の徹底。
4. 実際の被災文化遺産／バイタルレコード救出、復旧作業。
 - ①日本土地家屋調査士会連合会『会報』2010年4月号 p.5-11「インドネシア・アチェ州からの報告と危機管理」の記事参照(インターネットから全文閲覧可能)。
5. 東北大震災への支援ドキュメント
 - 3月11日インドネシアから一時帰国中に東京で地震を体感。大津波発生後、阪神大震災時支援に従事した方々とメール・電話での情報交換。
 - 3月21日神戸市の車両で神戸市役所を発ち、被災地仙台(宮城県)に入った。
 - 3月22日～25日宮城野区、蒲生地区、若林区荒浜、仙台塩釜港地区、亶理地区、宮城県歴史資料ネット(東北大学)などを報道車で訪問。

- 3月26日神戸市の車両で神戸に戻った。
- 3月27日『東京新聞(朝刊)』“思い出、データ早く修復を”記事掲載。
- 3月28日国立公文書館を訪問し、高山館長らに被災地の状況を報告。
- 3月29日デジタル復旧会社の方々と青山で会合。
- 3月30日『朝日新聞(朝刊)』“支援通信”記事掲載。
- 3月31日情報の少ない岩手県内の被災地を回るため、東京を車で出発。
- 4月1日法務省よりSOSを受けて、大船渡法務局を職員らと訪ね現状把握。
- 4月1日夕方NHK・TVで大船渡法務局現状ニュース報道。
- 4月2日気仙沼法務局を職員らと訪ね現状把握。
- 4月3日～8日岩手県内県立病院など各所を回る。
- 4月9日朝東京に帰着。
- 4月18日～23日岩手県内各所を回る。
- 4月23日夜東京に帰着。
- 4月26日～29日大船渡(27, 28日記録・輸送)作業。
- 4月30日花巻から関西へ移動。
- 5月1日～5日被災バイタルレコード応急処置(於関西) →全点急速冷凍
- 5月2日～ 真空凍結乾燥作業開始